２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	情報	情報Ⅰ	進学	2	熊谷
教科書	『情報Ⅰ』（数研出版）				
副教材	『情報Ⅰ　サポートノート』（数研出版）				
評価基準	観点① 知識・技能 基本的なコンピュータの操作方法を身に着けることがでた。 情報社会を生きるうえで基本となる知識や法規を身に着けることができた。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 情報を発信するうえで受け手の立場に立った表現をすることができた。 課題を解決するために自身の持っている知識を使い論理的に考え答えを導き出すことができた。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業以外の時間にも積極的にコンピュータに触れ、新しい技術に触れ、 自身の情報処理能力を向上することができた。				
考査・評価方法	1学期期末･2学期期末･学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 〈観点①（期末50）×40％＋（実技課題20)〉＋〈観点②（期末50）×40％＋（実技課題20)〉＋観点③20点 の計１００点満点での評価 実技課題は学期によって異なるものが出題される				
授業のねらい･進め方･学習アドバイス	社会に出ても通用する情報処理技術を１年間で身に着ける。 特にOfficeソフトを中心に実技の課題を実施する。 また、ICTに関するモラル・法規・基礎的な技術について理解を深め、サイバー犯罪などといった脅威から自身を守るための知識を身に着ける。 コンピュータの操作に自身のない生徒は、予習をしっかり行い分からないことはすぐに教員へ質問することを心がける。				
図書資料の活用	『栢木先生のITパスポート教室』（技術評論社） 情報Ⅰの知識で取得可能なITパスポートに関する教本です				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	オリエンテーション ２編　コミュニケーションと情報デザイン ４章　プレゼンテーション	情報教室で使用できるPC・iPadへのログイン方法や教室内の利用法について学び、IDとパスワードの管理法について学ぶ。 iPadのプレゼンテーションソフトを用いて自己紹介用のプレゼンを制作し、発表する。
	5	１編　情報社会の問題解決 １章　情報とメディア ２章　情報社会における法とセキュリティ ３章　情報技術が社会に及ぼす影響	情報メディアの特性の理解と法規や制度・セキュリティの重要性について学習し、目的に応じた情報の利活用について学習する。
	6	２編　コミュニケーションと情報デザイン ２章　コミュニケーション手段の発展と特 ３章　情報デザイン	コミュニケーション手段の技術による変遷とそれぞれの特徴について学習し、現在ではどのようなことに配慮をして情報がデザインされているのか学習する。
	7	ワープロソフトの実践	Microsoft社のWordを使用して提示された見本通りにデータを編集する課題を行う。
2	9	２編　コミュニケーションと情報デザイン １章　情報のデジタル表現	デジタルデータの特徴を理解し、デジタル化の仕組みやメリットデメリットについて理解をする。
	１０	表計算ソフトの実践	Microsoft社のExcelを用いて基本的な関数の操作などといった基本的な操作を学習し、見本同じようなデータを編集すして作成する課題を行う。
	１１	３編　コンピュータとプログラミング １章　コンピュータのしくみ ２章　プログラミング	アルゴリズムを考えフローチャートとして表現し、課題を解決するプロセスを学習する。 プログラミングはScratchを用いて行う 基本的な順次・分岐・反復といった処理ができるようになり簡単な計算をプログラミングを習得できるように学習する。
	１２		
3	1	３編　コンピュータとプログラミング ３章　モデル化とシミュレーション	社会や自然などにおける現象をプログラミングを用いてモデル化し、シミュレーションを実施する。
	2	４編情報通信ネットワークとデータの活用 １章　ネットワークの仕組み ２章　データベース ３章　データの分析 タイピングテスト エクセルを用いたデータ分析	データの蓄積、管理、提供する方法や収集、整理、分析する方法について理解し、その技術を身に着ける。さらに、分析したデータから新たな価値を見つけ提案できるようにする。 ブラインドタッチの習得を目標に各授業でトレーニングを重ねる。
	3		

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	公民	公共	選抜	2	西尾
教科書	実教出版 詳述 公共				
副教材	実教出版 詳述 公共 演習ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 基本的用語を理解し、適切に使用することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 文章やグラフ、表からその内容を理解し、状況を判断することができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題への取り組む姿勢				
考査・評価方法	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のね	中学校で学んだ知識を基に、より専門的な知識を習得することで、社会の構造やしくみを理解する。また、諸課題に対しての理解を深め、将来主権者になる自覚と自らの考えを持てるようになるための素養を身につける。日頃から、ニュースなどに興味関心のあることだけでなく、社会に対しての視野を広げるようにすることが大事である。				
図書資料	授業中に図書資料、新聞記事等を紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	第１編 公共の扉 第２章 人間としてよく生き １ ギリシアの思想 ２ 宗教の教え
	5		３ 人間の尊重 ４人間の自由と尊厳 5　個人と社会　　6 主体性の確立 中間考査
	6		７ 他者の尊重 ８ 公正な社会 第３章 民主社会の倫理 １ 人間の尊厳と平等 ２ 自由・権利と責任・義務
	7		期末考査
2	9	教科書	第４章 民主国家における基本原理 １ 人権保障の発展と民主政治の成立 ２ 国民主権と民主政治の発展 第２編 よりよい社会の形成に参加する私たち
	10		第１章 日本国憲法の基本的性格 １ 日本国憲法の成立 中間考査
	11		２ 平和主義とわが国の安全 ３ 基本的人権の保障 ４ 人権の広がり
	12		期末考査
3	1	教科書	第２章 日本の政治機構と政治参加 １ 政治機構と国民生活 ２ 人権保障と裁判所
	2		３ 地方自治 ４ 選挙と政党 ５ 政治参加と世論
	3		学年末考査

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	保健体育	体育	選抜	2	体育科各教員
教科書	現代高等保健体育				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について，自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，他者と協調性を大切にしようとするとともに，健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点＝100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点①　体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける ※１学期は新体力テストが加わる。※３学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価				
	観点②　観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③　観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習 過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継 続するとともに，自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
図書資料の活用	必要に応じて授業で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	現代高等保健体育	新体力テスト 大東体操 グラウンド：ラグビー（基礎） 体育館：バレーボール（基礎） グラウンド：ラグビー （基礎または応用～ゲーム） 体育館：バレーボール （基礎または応用～ゲーム） グラウンド：実技テスト 体育館：実技テスト
2	9 10 11 12	現代高等保健体育	グラウンド：サッカー（基礎） 体育館：バスケットボール（基礎） グラウンド：サッカー （基礎または応用～ゲーム） 体育館：バスケットボール （基礎または応用～ゲーム） グラウンド：サッカー （基礎または応用～ゲーム） 体育館：バスケットボール （基礎または応用～ゲーム） グラウンド：実技テスト 体育館：実技テスト
3	1 2 3	現代高等保健体育	グラウンド、体育館ともに持久走 グラウンド、体育館ともに持久走 グラウンド：実技テスト 体育館：実技テスト

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	保健体育	保健	選抜	1	上田　菅田　徳原　田村

教科書	現代高等保健体育（大修館）
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。
考査	1学期期末･2学期期末･学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20
テスト･評価の内訳	観点①　授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題
	観点②　授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題
	観点③　ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含） レポート提出
授業のねらい･進め方･注意点	○社会の変化に伴い生涯を通じて心身の健康を保持増進していくために適切な生活行動の選択や実践及び環境の改善をしていく必要性、わが国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性を理解する。また、社会生活における集団の健康の保持増進には、環境などが深く関わっていることから環境衛生と疾病予防活動について理解できるようにする。 ○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。
図書資料の活用	必要に応じて授業で提示する。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	現代高等保健体育	01.健康の考え方と成り立ち 02.私たちの健康のすがた 03.生活習慣病の予防と回復 04.がんの原因と予防 05.がんの治療と回復 06.運動と健康 ◎ノート提出 ☆期末考査
2	9 10 11 12	現代高等保健体育	07.食事と健康 08.休養・睡眠と健康 09.喫煙と健康 10.飲酒と健康 11.薬物乱用と健康 12.精神疾患の特徴 13.精神疾患の予防 14.精神疾患からの回復 ◎ノート提出 ☆期末考査
3	1 2 3	現代高等保健体育	15.現代の感染症 16.感染症の予防 17.性感染症・エイズとその予防 18.健康に関する意思決定・行動選択 19.健康に関する環境づくり ◎ノート提出 ☆期末考査

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	理科	生物基礎	選抜	2	笛木
教科書	・高等学校　生物基礎　第一学習社　　・高等学校　化学基礎　実教出版				
副教材	・ネオパルノート生物基礎　第一学習社 ・アクセスノート化学基礎　実教出版				
評価基準	観点① 知識・技能 語句　単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能　実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い　単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見　状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲　自分で必要だと思ったことを実施し、語句の習得のための努力を重ねる。 関心　習得した理論の歴史や社会的意義を調べたり、考察したりする。				
考査・評価	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のね	・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・学習者は、？・Q・checkについての論述内容を記載する。 ・TRYについてはグループワークで解決を図り、グループで統一見解をつくる。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。				
図書資料	・学期ごとに出すレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	生物基礎 教科書p18～27	単元　生物の多様性と共通性
		発展の項目を除く	？・Q・checkについて論述する
		参考・演習に触れる	TRYはグループワークで解決する
	5	教科書p28～33	単元　生物の共通性の由来
		発展の項目を除く	？・Q・checkについて論述する
		参考・演習に触れる	TRYはグループワークで解決する
	6	教科書p54～61	単元　遺伝情報とDNA
		発展の項目を除く	？・Q・checkについて論述する
		参考・演習に触れる	TRYはグループワークで解決する
	7	教科書p62～69	単元　DNAの複製と分配
		発展の項目を除く	？・Q・checkについて論述する
		参考・演習に触れる	TRYはグループワークで解決する
	9	教科書p28～33	単元　遺伝情報とタンパク質
		発展の項目を除く	？・Q・checkについて論述する
		参考・演習に触れる	TRYはグループワークで解決する
	10	教科書p28～33	単元　転写と翻訳
		発展の項目を除く	？・Q・checkについて論述する
		参考・演習に触れる	TRYはグループワークで解決する
	11	化学基礎　教科書p12～47	単元　物質の探求
		発展の項目を除く	物質の構成粒子
			教科書の問いレベルの問題を演習
	12	教科書p52～57	単元　さまざまな周期律
2			教科書の問いレベルの問題を演習
	1	教科書p58～72	単元　物質と化学結合
		p84～92	（イオン結合、共有結合）
			教科書の問いレベルの問題を演習
	2	教科書p96～105	単元　物質と化学結合
	3		（分子間力、金属結合、化学結合と物質）

3			教科書の問いレベルの問題を演習

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	英語	EC I	選抜	4	石川

教科書	FLEX I（増進堂）
副教材	聞く・話す・書く 英語の語順トレーニング Level 1, Level 2(ELPA英語運用能力評価協会) Reading for Speed and Fluency 1、英単語ターゲット1400、レシピー
評価基準	観点① 知識・技能 ＊教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできている
	観点② 思考力・判断力・表現力 ＊①で習得したものをベースに、応用問題が解けている ＊関連入試問題に対する理解が深められており、入試長文の解法が理解できている
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ＊授業内のオーラル活動、各種課題、音読テストの取り組みを評価する
考査・評価方法	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20
授業のねらい･進め方･学習アドバイス	・1学期中間考査までは、「語順トレーニング」で中学英語復習プログラムを行う。 ・授業内での活動を通して、英語の4技能（Listening, Reading, Writing, Speaking）を総合的に育成する。適宜一般選抜に必要な授業をオリジナル教材を用いて行う。 ・各レッスン、音読テストを行う。 ・iPad / schoolTaktで授業を行う。 ・3学期はネイティブ教員とTTで授業を行う。Biomimicryに関してのグループプレゼンテーションを行う。
図書資料の活用	

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	語順トレーニングLevel 2	中学内容の復習
		Lesson 1	
	5	中間考査	
		Lesson 2,3	
	6	期末考査	
2	9	Lesson 4,5	
	10	中間考査	
		Lesson 7,8	
	11	期末考査	
3	1	Lesson 9, 10	L9はネイティブとのTT
	2		
	3	学年末考査	

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	英語	論理・表現I	選抜	3	山浦
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression（桐原書店）				
副教材	SKYWARD 総合英語Extensive English Skills in 48 Lessons Workbook SKYWARD 総合英語 Extensive English Skills Workbook Grammar・Writing・Reading				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材で扱った事項を十分理解し、マスターしている 入試問題における選択問題を根拠を持って解くことができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ①で習得した知識を元に初見の問題を解いたり、英作文できる 入試問題における正誤・整序英作文を根拠を持って解くことができる				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内の活動に参加できている 課題（レシピ―）のライティングおよびスピーキング問題に取り組む				
考査・評価方法	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい･進め方･学習アドバイス	【ねらい】 正しい英文を書き、話せるようになること。 【進め方】 授業は「根拠を持って説明できる」ことを目標にする。SKYWARDを中心に進める。また、ワークも含め、多数の問題に取り組む。自主教材も使用する。 【注意点】 問題数を多くこなすので、自宅学習が増えることになる。また、入試問題の演習および課題があるので、その際は予習を必須とする。予習に関しては、自分なりの根拠を持って説明できるレベルまで求める。授業はその差異を埋めるものとする。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	Pre-Lesson 1-5	品詞・文型・句と節など
		Lesson 1-4	時制
	5	Lesson 5-7	助動詞
		中間考査	
	6	Lesson 8-11	受動態
		Lesson 11-14	不定詞
		Lesson 15-18	動名詞と分詞
	7	期末考査	
2	9	Lesson 19-21	関係詞
		Lesson 22-24	比較
	10	Lesson 25-26	仮定法
		中間考査	
		Lesson 27-30	文の種類
	11	Lesson 31-33	動詞
		Lesson 34-40	名詞・代名詞・冠詞
	12	期末考査	
3	1	Lesson 41-44	形容詞・副詞
		Lesson 45-45, Plus	接続詞
	2	Lesson 47-48	前置詞
		Plus	挿入・省略・強調・倒置
		入試問題演習	
	3	学年末考査	

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	国語	現代の国語	選抜	2	小平
教科書	数研出版「現代の国語」				
副教材	『現代の国語準拠ワーク』(数研出版).『入試頻出漢字+現代文重要語彙ＴＯＰ２５００ 三訂版』(いいずな書店),『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店),『評論速読トレーニング1000』(数研出版)				
評価基準	観点① 知識・技能 ・語句の意味を理解し、書き取り、読み方を正確にできるようにする。 ・文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 ・比喩，例示，言い換えなどの修辞や，直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握すること。 ・本文内容を具体的にわかりやすく言い換えられること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・授業姿勢（提示された問いについて書く、教員やクラスメイトの話を聞く、様々な文章を読むなど） ・小テスト				
考査・評価方法	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業の	【ねらい】真摯に文章と向き合い、内容を理解することで、自身の人生と学んだ文章の概念を照らし合わせて豊饒な心を養う。 ・教科書、ノート、ペンの用意をする。ipadは基本的に使用しないので指示があるときの				

授業の計画

学期	月	（回数と教材はあくまで予定）	内容
1	4	・書けない日々 2.5回 ・コミュニケーション能力とは何か　3回	
	5	・水の東西　2.5回 中間考査	
	6	・ものとことば（69p5行目～）　2.5回 ・時間と自由の関係について　3.5回 ・速読１～４　２回	
	7	期末考査 夏休み宿題　top2500＆速読5-10	文章の精読をする
2	9	・浪費を妨げる社会　3回 ・白　2.5回	
	１０	・デジタルメディア時代の[illegible] 中間考査 ・絵を前に思いをめぐらす3回	
	１１	・無痛化する社会のゆくえ　2.5回 ・速読11-14 期末考査 冬休み宿題 top2500＆速読15-19	文章の精読をする
1	1	・他者を理解するということ４回	

授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・教科書、ノート、ペンの用意をする。ipadは基本的に使用しないので指示があるときのみ用意する。 ・チャイム着席とは始業チャイムが鳴る前に上記の準備物を用意し、着席しているということである。 ・漢字、現代文単語の小テストを適宜行う。この結果を観点③に反映する。 ・学期ごとにノート点検も行う。
図書資料の活用	

		・事実なのか考えなのか4回 ・速読20-24 学年末考査	
3			文章の精読をする

２０２４年度

学年	教科	科目	単位	担当者
1	国語	言語文化	3	織田
教科書	『言語文化』数研出版			
副教材	『言語文化 準拠ワーク』数研出版 『Key&Point古文単語330』いいずな書店 『古典の手引き』『古典の手引き　定着ノート』いいずな書店　小論文チャレンジノートvol.1・2			
評価規準	観点① 知識・技能 単語、文法、修辞法、古文常識を理解し、身につけること。 訓読、句法を理解し、身につけること。 文脈に即して語句の意味を正確に捉えることができること。			
	観点② 思考力・判断力・表現力 単語や文法を用いて現代語訳ができること。 句法を理解した上で、漢文の意味が取れることができること。 作品の主題、登場人物の心情を読み取ることができること。			
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 工夫が見られるノートを提出。しっかり取り組んだワークや課題。 発言や発表を含む授業姿勢。文法、句法、単語の小テスト。			
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。			
評価	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20			
テスト・評価の内訳	観点① 単語、文法、古文常識、句法、語句などの知識			
	観点② 現代語訳、文脈に即した内容理解、表現の特徴の理解			
	観点③ ①ノート提出 ②ワーク提出 ③課題（小テスト） ④授業姿勢			
	今まで学んできた「国語」と呼ばれるものは「日本語」と一括りにされてしまう。しかし、実は「日本語」には様々な種類があり、それぞれに特徴を有している。そ			

授業の計画

学期	月	教材	内容
	4月	①ガイダンス	・ノートの取り方・授業の進め方
		②古文基礎知識	・仮名遣いと品詞（教p34/35）
		③『宇治拾遺物語』	・文法の理解「用言」（教p40/41）
		「児のそら寝」	・逐語訳を作る
	5月	④『羅生門』と『今昔物語集』	・近現代文学への理解
			・比喩表現の効果についての理解
			・人物の描き方への理解
	5/21～	**中間考査**	**※試験範囲に古文単語を含む**
		④の続き	
	6月	⑤漢文基礎知識	・教p138/139,142/143,漢文入門導入編
		「入門一、二」	・置き字
		⑥「故事成語」	・句法の理解「再読文字」「否定」
		「漁夫の利」「矛盾」	
	7月		
1学期	**7/5～**	**期末考査**	**※古文単語、古文文法を含む**
	9月	①夏休み課題確認	・文法事項の復習
		②『徒然草』「ある人～」	・文法の理解「助動詞」①
	10月		・随筆への理解を深める
		③『史伝』「鶏口牛後」	・中国「春秋戦国時代」への理解
			・句法の理解「受身」「使役」
			教p165/漢文入門基礎編
	10/14～	**中間考査**	**※試験範囲に古文単語を含む**
		④『城之崎にて』	・人物の内面を読み取る
		⑤『伊勢物語』「芥川」	・文法の理解「用言の復習」「助動詞」②
			・和歌の解釈について
2学期	**12/2～**	**期末考査**	**※漢文句法復習、古文単語を含む**
	1月	①冬休み課題確認	
		②『土佐日記』門出	・助動詞の識別に慣れる
	2月	③近現代・詩/短歌/俳句	・韻文への理解
		④漢詩	・漢詩の決まり・漢文入門「漢詩」

授業のねらい・進め方・注意点	こで、古典、漢文、近現代の文学をバランスよく学ぶことで、日本語の表現の幅や豊かさを理解することができる。また、単語や文法を習得したり、表現を方法を理解したりすることで、日本の文化として受け継がれてきた感性や考え方を読み解くことができる。

		⑤古今和歌集	・万葉集/古今/新古今それぞれの特徴
3学期	**3/4～**	**学年末考査**	

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	地歴公民	歴史総合	選抜	2	山本

教科書	『歴史総合』山川出版社
副教材	『歴史総合 近代から現代へ ノート』山川出版社 適宜資料を配布する
評価基準	観点① 知識・技能 社会生活を営む上で、必要となる共通用語や人物を正確に理解し、使用することができる。また、いくつかの資料から社会に起きている事象を読み解くことができる。
	観点② 思考力・判断力・表現力 私たちの生きる社会構造について、メリット・デメリットを理解し、それについての自らの考えを持ち、適切に判断、表現をすることができる。資料を適切に活用できる。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 私たちが生きる社会の中で起こる事象について、積極的に関心を持って考えることができる。社会の一員として、諸問題の解決策を自ら考えることができる。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20
テスト･評価の内訳	観点①　基本用語や人物名、年代など正確に記述することができる。資料をもとに社会の事象について、正確に把握し、理解することができる。
	観点②　いくつかの選択肢の中から、正確な情報を選び取ることができる。社会で起こる事象について、的確な用語を使って説明することができる。
	観点③　課題や授業に対し、積極的に取り組む。また、社会の事象に対し、興味関心を持って知識を深め、他者と意見交換を行い、より深い自分の考えをまとめる。
授業のねらい･進め方･注意点	**世界史の中で日本史（世界と日本のつながり）をとらえる。現代の諸課題について歴史から考える。**社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。授業は、講義形式だけでなく、自らの考えをまとめたり、グループで考えるなど、多くの考え方に触れる機会をつくる。
図書資料の活用	授業中に図書室資料を紹介する。 本を活用する課題を課す予定。

授業の計画　　進度は前後することがある。6章終了後は戦後史を行う。

学期	月	教材	内容
	4	□ 教科書	基本事項確認
		□ 副教材	1章 結びつく世界
		□ 配布資料	1.アジア諸地域の繁栄と日本
		（適宜）	2.ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出
	5		2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立
		中間	1.ヨーロッパ経済の動向と産業革命
			2.アメリカ独立革命とフランス革命
	6		3.19世紀前半のヨーロッパ
			4.19世紀後半のヨーロッパ
			5.19世紀のアメリカ大陸
			6.西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化
	7	期末	7.中国の開港と日本の開国
1			夏休み課題
	9	□ 教科書	３章　明治維新と日本の立憲体制
		□ 副教材	1.明治維新と諸改革
		□ 配布資料	2.明治初期の対外関係
	10	（適宜）	3.自由民権運動と立憲体制
		中間	４章　帝国主義の展開とアジア
			1.条約改正と日清戦争
			2.日本の産業革命と教育の普及
			3.帝国主義と列強の展開
	11		4.世界分割と列強の対立
			5.日露戦争とその影響
			５章　第一次世界大戦と大衆社会
	12	期末	1.第一次世界大戦とロシア革命
2			冬休み課題
	1	□ 教科書	2.国際平和と安全保障
		□ 副教材	3.アジア・アフリカ地域の民族運動
		□ 配布資料	4.大衆消費社会と市民生活の変容
	2	（適宜）	5.社会・労働運動の進展と大衆の政治参加
			６章　経済危機と第二次世界大戦

			1.世界恐慌の発生と各国の対応 2.ファシズムの台頭 3.日本の恐慌と満洲事変 4.日中戦争と国内外の動き
3	3	学年末	5.第二次世界大戦と太平洋戦争

9

9

10

10

15

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	数学	数学Ⅰ	選抜	3	屋名池

教科書	数研出版　数学Ⅰ
副教材	数研出版　４ＳＴＥＰ　Ⅰ+A　・データの分析ノート
評価基準	観点① 知識・技能 数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
	観点② 思考力・判断力・表現力 付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20
テスト･評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題　50点
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題　50点
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み　20点
授業のねらい･進め方･注意点	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 恋と禁忌の述語論理・井上真偽 シュレーディンガーの少女・松崎有理

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	数研出版　数学Ⅰ	第1章　数と式 第1節　数と式 第2節　実数 第3節　1次不等式 第2章　集合と命題 第3章　2次関数 第1節　2次関数とグラフ
2	9 10 11 12	数研出版　数学Ⅰ	第3章　2次関数 第2節　2次関数の値の変化 第3節　2次方程式と2次不等式 第4章　図形と計量 第1節　三角比 第2節　三角形への応用
3	1 2 3	数研出版　数学Ⅰ	第5章　データの分析

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	数学	数学A	選抜進学	2	駒崎

教科書	数研出版　数学A
副教材	数研出版　４ＳＴＥＰ　Ｉ+A
評価基準	観点① 知識・技能 図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
	観点② 思考力・判断力・表現力 図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20
テスト･評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題　50点
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題　50点
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み　20点
授業のねらい･進め方･注意点	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 光秀の定理・垣根涼介 浜村渚の計算ノート４・青柳碧人

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	数研出版　数学A	第１章　場合の数と確率 第１節　場合の数 ・集合の要素の個数 ・場合の数 ・順列 ・円順列 ・重複順列 ・組合せ 第２節　確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質
2	9 10 11 12	数研出版　数学A	第1章　場合の数と確率 第2節　確率 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率　・条件付き確率 第2章　図形と性質 第１節　平面図形 ・三角形の辺の比　・三角形の外心 ・内心・重心 ・チェバの定理・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形　・円と直線 ・方べきの定理 ・２つの円の位置関係 第２節　空間図形 ・直線と平面　・多面体 第3章　整数の性質 第１節　整数の性質 ・約数と倍数 ・最大公約数と最小公倍数
3	1 2 3	数研出版　数学A	第3章　整数の性質 第1節　整数の性質 ・整数の割り算と商および余り 第２節　ユークリッドの互除法 ・ユークリッドの互除法 ・１次不定方程式 第３節　整数の性質の活用 ・分数と小数 ・ｎ進法

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	芸術科	音楽Ⅰ	選抜	2	溝口 佳洋
教科書	MOUSA1（教育芸術社）				
副教材	なし				
評価基準	観点① 知識・技能 【知識】 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 【技能】 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。（歌唱） ・他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。（器楽） ・反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付けている。（創作）				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚している。 ・それらの働きを感受しながら、知覚した事と感受したこととの関わりについて考えている。 ・どのように表すかについて表現意図をもっている。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
実技評価 テスト・評価の内訳	各学期末に実技テストと筆記小テストを実施 (3観点の比率と算出法) 観点①50% 観点②20% 観点③30% 観点① ・筆記小テスト（25点） ・実技テスト（25点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり 観点② ・振り返りシート（10点） ・鑑賞シート（10点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり 観点③ ・授業態度や他者との協働（15点） ・自己評価シート 等（15点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
授業のねらい・進め方・注意点	・集団で活動する内容も多いため、一人ひとりの協力的な雰囲気づくりが重要。 ・作品提出や演奏の練習では、自らを分析的に客観視し、こだわりを持って追及する。 ・文化祭での発表を経て、「達成感」が得られるように活動していく。				
図書資料の活用	学期ごとに出すレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	歌唱　「発声練習」 「翼をください」
		ミュージックノート	音楽理論（音符と休符）
	5・6	プリント	歌唱　「校歌」 「生徒歌」
			ミュージックベル　「生徒歌」 「自由曲」
		プリント	音楽理論（音名）
2	9	プリント	文化祭準備 「ミュージックベル」 「合唱」
	10・11	教科書	鑑賞　「オーケストラの世界」
		プリント	「映像と音楽の世界」
		プリント	合唱　「いのちの名前」
3	1・2	教科書	器楽（三線）
		プリント	「海の声」「涙そうそう」
		プリント	創作（DTM作曲）

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	芸術科	書道Ⅰ	2		佐藤敦子
教科書	書道Ⅰ・教育出版				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解するとともに，書写能力の向上を図り、 書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え 書の美を味わい捉えたりすることができるように する。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に書の幅広い活動に取り組み，主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育む ともに，感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を書を通して心豊かな生活や 社会を創造していく態度を養う。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 (3観点の比率と算出法) 観点①50%　観点②20%　観点③30%				
テスト・評価の内訳	観点①　作品評価40点 鑑賞文　書道史学習　書風の比較　10点				
	観点②　レポート（1，2学期）　書道史・理論テスト（3学期）　10点 観点の書き込み　工夫　及びグループ学習　10点				
	観点③　課題提出状況　10点 授業態度（作品レベル向上、グループ学習への取り組み）15点　自己評価5点				
授業のねらい・進め方・注意点	・素直に柔軟に自分の身に取り入れるつもりで学習し、充実した時間にする。 ・良い作品に対するこだわりを捨てない。 ・作品制作の雰囲気作りに心がける。 ・大東文化大学主催全国書道展への出品。 ・文化祭への出品。				
図書資料の活用	レポート課題に参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プリント	オリエンテーション
		教科書p12～	楷書の学習
			初唐の三大家
	5		
		教科書p26～	顔法　造像記の学習
	6		
		法帖	半切臨書作品
			文化祭作品制作
			落款について
			レポート課題
2	9	教科書p59～	篆刻の学習
		プリント教材	大東文化大学全国書道展出品
		教科書p34～	行書の学習
		手本蘭亭序	王羲之
	10		顔真卿
			空海
	11	行書まとめ	八つ切りに書く
			レポート課題
3	1	教科書p68～	草書の学習
		教科書p65～	隷書の学習
	2	教科書p82～	仮名の学習
			単体　連綿　臨書
			テスト

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	芸術	美術Ⅰ	選抜	2	小西

教科書	高校生の美術１(日本文教出版)
副教材	なし
評価基準	観点① 知識・技能 知識：造形要素の働きの理解、イメージや作風、様式などでとらえることの理解 技能：材料や用具を生かす技能、創造的に表す技能/創造的に思考・判断・表現するための言語を使用する基礎的な技能
	観点② 思考力・判断力・表現力 主題の生成、発想、創造的な表現を構想する能力/創意工夫を思考する能力（制作） 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働き、美術文化などについて考え伝える能力（鑑賞）
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に美術の幅広い活動に取り組む態度
考査	なし
評価	各学期、100点満点で表記する。
テスト・評価の内訳	観点① 知識・技能（50点） 小テスト5点、美術の基礎的な言語技能5点、作品40点
	観点② 思考・判断・表現力（20点） 構想メモ、制作中の振り返りWS（ワークシート）、鑑賞WS、小論文 （学期によって実施状況が異なるので、取り組んだ時間や労力を考慮して点を配分。）
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度（30点） 提出物10点、積極性10点、制作前の鑑賞WS＆制作終了後の振り返りWS10点
授業のねらい・進め方・注意点	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、 生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
図書資料の活用	授業中に図書室資料を紹介する。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	立方体モチーフ デッサン用具	立方体のデッサン 果物のデッサン
	5	教科書、WS（ワークシート）	静物画の歴史（鑑賞）
	6	静物モチーフ 油彩用具 WS	油彩による静物画の制作 生徒作品の鑑賞、振り返り
2	9	教科書、WS イラストボード	ポップアート（鑑賞） 写真模写を通して配色を学ぶ
	１０	アクリルガッシュ等 WS	 生徒作品の鑑賞、振り返り
	１１	WS	名画の構図分析（鑑賞） 報告会、振り返り
	1	教科書、WS マーブリング液、アクリルガッシュ等	モダン・テクニック（鑑賞） モダン・テクニックによるコラージュ作品の制作
3	2	教科書、WS iPad（ibisPaint） WS	キュビズム（鑑賞） キュビズムを用いた作品の制作 生徒作品の鑑賞、振り返り

２０２５年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	理科	物理基礎	選抜	2	榎本

教科書	物理基礎（物基703）実教出版
副教材	物理基礎学習ノート　数研出版
評価基準	観点① 知識・技能 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。
	観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組み、知識や思考力等の成長のために努力できる。また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。
考査・評価方法	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
	各学期、100点満点で表記する。 1･2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20
授業のねらい･進め方･学習アドバイス	物理基礎の範囲について、教科書や副教材・授業プリント等を用いて学習します。 問題演習等を通して、科学的な思考力を身につけましょう。 家庭学習では、副教材や授業で行った問題に取り組みましょう。
図書資料の活用	学期ごとに出すレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	物理基礎第1章2節　力	力の種類と働き
	5		作用反作用とつりあい
			弾性力・摩擦力
	6	物理基礎 第1章 1節	位置と変位
		運動の表し方	等速直線運動
			等加速度運動
	7		
2	9	物理基礎 第1章 3節	重力加速度
		運動の法則	落体の運動
	10	物理基礎 第2章 1節	慣性の法則
		運動とエネルギー	運動の法則と運動方程式の活用
			仕事と力学的エネルギー
			仕事と仕事率
	11	物理基礎 第2章 2節	位置エネルギーと運動エネルギー
		熱とエネルギー	力学的エネルギー保存
	12		熱と温度
			熱容量と比熱
			熱と仕事
			熱量の保存
3	1	物理基礎 第4章 1節 電流	静電気
			電流
			オームの法則と抵抗の接続
			電気とエネルギー
	2	物理基礎 第4章 2節	電流と磁場
		電気の利用	モーターの原理

一年次　総合的な探究の時間　シラバス

活動の指針	一年次では、テーマに沿った内容を調べ、考えるとともに他者との交流を通じてアウトプットを目指し、探究する土台を作り上げる。 アウトプットを目指し、探究する土台を作り上げる。 一学期　キャリアナビのプログラムに沿った基本事項を学ぶ。 二学期　学校近隣地域に関する探究と国際理解に関する探究を行いグローバル探究につなげていく。 三学期　キャリアナビを使って、二年次に行う個人探究の準備を行う
教材教具	□　iPad　（Classroomの連絡が確認できる端末） □　キャリアナビプログラム □　その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	次年度以降も活用できる探究の基本事項をプログラムを通して学ぶ 授業の流れ ①「キャリアナビ」を使って探究活動を体験する ②「キャリアナビ」を使って地域活動に関しての探究活動の基礎を学ぶ ③地域の人の話を聞くなどして、地域活動に関するアイデアを考えてみる ④可能なら地域でっ実地検分を行う ⑤一学期のまとめ　夏休みの課題説明
夏休み	
二学期	キャリアナビのプログラムより探究活動の過程を身につけ、12月に行うグローバル探究に結び付けていく。また、成果をまとめていくためのスキルとして、小論文の書き方の基礎を学ぶ。 ①グローバル探究に向けての学校近隣の地域をテーマとして情報の収集分析・まとめを行う。 ②小論文の書き方の基礎を学ぶ。 ③グローバル探究に向けての準備を進める。 【グローバル探究】　期末試験後の2日間で行う。 →　これまでの学習を踏まえ、協働性と表現力を養う。
三学期	2年次に行う個人探究に向けての準備を行う。 授業の流れ ①二学期の振り返り ②次年度に行う個人探究に向けての準備として、自己や社会を理知識を深めていく ③個人探究のテーマを決め、探究を進めていく ④最後の授業で、2学年の個人探究成果発表を聞く

注意	
基本事項	１年間を通じてプログラムに沿った形で探究について考える。 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 次年度では個人での探究活動も行うため、考え方の基礎を身につ
成果物	調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識し成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は○○分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って＋αのアイデ ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり…はやめる。 人に指示してやらせてばかり…はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事視る」という点である。様らの情報や異論などを集めれば、よいチームだと評価

解し

ける。

た

アを出す。

補う。
する。

を多面的に
々な側面か
、整理でき
される。